

海軍舞鶴鎮守府 開庁120年

京都府
舞鶴市

鎮守府とは、軍港に置かれた海軍の拠点のことをいいます。

明治時代、旧海軍は日本沿岸の海を5つの海軍区に区分し、そのうちの横須賀、呉、佐世保、舞鶴に鎮守府を設置して、各海軍区の防備、艦艇の建造・修理、兵器の製造、海軍病院、軍港水道等の施設の運営・監督を行いました。その中で舞鶴鎮守府は、日本海側唯一の拠点として1901年に開庁されました。



これにより、それまでの小さな漁村は、膨大な予算と当時の最新技術が投入されて、近代的な軍港のまちとして発展しました。その後平和な時代が訪れ、鎮守府は廃止されますが、その数々の遺産は地元を引き継がれて使用され、今日に至っています。

今年2021年は、開庁120年の節目の年にあたります。



舞鶴観光協会では、舞鶴市や関係機関と共に、これを機会に、そこで培われてきた技術や知識、文化に今一度改めて着目し、地域の観光魅力づくりに活用していきたいと考えているようです。

(近畿ブロック 舞鶴港湾事務所)